

2019年2月5日
商 工 中 金
一般財団法人商工総合研究所

2018年度受賞作品決定

～「中小企業研究奨励賞」「中小企業懸賞論文」「中小企業組織活動懸賞レポート」～

商工中金の関係先である一般財団法人商工総合研究所は、「中小企業研究奨励賞」「中小企業懸賞論文」「中小企業組織活動懸賞レポート」の2018年度の各受賞作品を次のとおり決定しました。

1. 中小企業研究奨励賞

- ・中小企業研究奨励賞は、中小企業に関する優れた図書または定期刊行物に発表された論文を表彰するもので、1976年から実施しており今回が43回目となります。
- ・2018年度は、2017年8月1日から2018年7月31日までに発表された図書または論文を対象とし、過去最高の96点の応募がありました。

【経済部門】

□準賞

『アジアローカル企業のイノベーション能力』

—日本・タイ・中国ローカル2次サプライヤーの比較分析—

著 者 赤羽 淳氏（中央大学経済学部准教授）

土屋 勉男氏（桜美林大学大学院経営学研究科客員教授）

井上 隆一郎氏（桜美林大学ビジネスマネジメント学群、
同大学院経営学研究科教授）

出版社 株式会社 同友館

□準賞

『地域産業集積の優位性』

ネットワークのメカニズムとダイナミズム

著 者 田中 英式氏（愛知大学経営学部教授）

出版社 株式会社 白桃書房

【経営部門】

□準賞

『小さな会社の大きな力』

—逆境を成長に変える企業家的志向性（EO）—

著 者 江島 由裕氏（大阪経済大学経営学部教授）

出版社 株式会社 中央経済社

□準賞

『何がベンチャーを急成長させるのか』

—経営チームのダイナミズム—

著 者 小林 英夫氏（多摩大学経営情報学部教授）

出版社 株式会社 中央経済社

2. 中小企業懸賞論文

- ・中小企業懸賞論文は、学生・実務家など幅広い層から中小企業の産業・金融に関する論文を、毎年テーマを定めて募集しています。1987年から実施しており今回が32回目となります。
- ・2018年度は、産業部門のテーマ（「地域資源の活用による中小企業の発展戦略」「人手不足と中小企業の生産性向上」）に対して52編、金融部門のテーマ（「中小企業が求める金融機関による本業支援」「中小企業金融におけるリスクマネーの供給と信用保証制度」）に対して23編の応募があり、合計応募点数は75編でした。

【産業部門】

○本賞

「観光地における外国人観光客誘致に向けた
地域情報蓄積プラットフォームの提案—高山市を事例に—」
細田 脩人氏、池添 あゆみ氏、高瀬 温大氏、
藤本 彩香氏 以上4名（立教大学 経済学部2・3・4年）

□準賞

「地域の競争優位を活かした浅草革靴メーカーの発展戦略
—CADSモデルによる意味的価値の創出—」
佐藤 峻氏、青木 華氏、上野 嘉人氏、
春山 大季氏 以上4名（慶應義塾大学 商学部3年）

【金融部門】

○本賞

「意欲的な姿勢で行う本業理解による信用金庫の販路拡大支援」
野中 有里子氏、亀井 佳乃氏、石坂 真理愛氏、
宮島 彩花氏 以上4名（立教大学 経済学部2・3年）

○本賞

「地場産業が求める地域金融機関による本業支援
—岐阜県関市に焦点を当てて—」
長沼 諒氏（関西学院大学 商学部4年）

□準賞

「農業変革期において農業法人が金融機関に求めること
—法人化が進む農業分野における融資への柔軟な理解と
農業経営アドバイザーによる支援—」
大熊 慶氏、實 康一朗氏、丹羽 輝昌氏、
長谷 栄理氏、初瀬 杏氏 以上5名（慶應義塾大学経済学部3年）

□準賞

「地域医療とリース業」
下京 正弥氏、元廣 京哉氏、柴垣 慶太郎氏、
田中 荘太郎氏、有田 暉氏 以上5名（山口大学 経済学部3年）

3. 中小企業組織活動懸賞レポート

- ・中小企業組織活動懸賞レポートは、中小企業の組織活動の現場における体験レポートを募集するもので、1997年度から実施しており今回が22回目となり、2018年度は7編の応募がありました。

- | |
|---|
| <p>○本賞 「オホーツクの食材で作った酢のブランド化
～小さな企業が連携して商品開発・販路拡大を目指す～」
河田 真清氏（公益財団法人はまなす財団事業産業部主任研究員）</p> <p>○本賞 「長良川流域の手しごとが抱える課題と解決への取組
—長良川手しごと町屋 CASA を通して—」
蒲 勇介氏、籠原 潤一氏、河口 郁美氏（NPO 法人 ORGAN 理事長他）</p> <p>○本賞 「I-Port（アイ・ポート）
—支援機関同士の連携による新事業創出への挑戦—」
内山 拓己氏（飯田市産業経済部金融政策課主査）</p> |
|---|

以上